



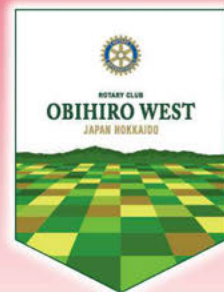
世界に希望を生み出そう

# 帯広西ロータリークラブ

# 会報

第2451回例会

2023.10.19



■RI第2500地区スローガン■

今こそ変わる勇気を！  
さあ、一步前へ

■クラブ・テーマ■

皆に希望と笑顔と愛を！  
ロータリーを楽しみながら活動しよう！

## 会長報告

上野 裕司 副会長

今年度副会長を仰せつかり、本日会長代行挨拶をさせていただきます上野です。よろしくお願いいたします。



私は12年前の春ライオンズを退会し、その半年後、天野会長の勧めで本会ゴルフ同好会に特例での参加に始まり、今日に至って、とうとうこのような時が来てしまうとは思いつつ、西ロータリークラブで本当に良かったとつくづく感謝しています。

職業は、司法書士、土地家屋調査士など、皆さんはあまりピンとこない職種なのではないでしょうか。平成14年弁護士不足から、司法書士も裁判官らの同じ法曹界入りして、サラ金訴訟が盛んな頃には簡易裁判所の民事法廷にも代理人となり、財産管理業務も行っています。

あまり沸かない話なので話変わりまして、好きなものは、ゴルフ同好会であり、銘酒会であり、日本水泳連盟の指導員であります。ある会員さんからは陰謀論者と云われるくらい、古代の日本や、政府の政策クレーマーです。そろそろロータリークラブも、政府の政策にNOと云うべき時期かなと思っています。

そして、今の私がハマっているホーチミンは、日本にひけをとらない街であることです。ベトナムは、明治維新から20年後の1887年にフランスの植民地となりますが、フランスは、コフィンという名の専門家を中心にサイゴンの都市計画をつくり、町にはフランス本国で流行していた当時の建築様式を真似た、たくさんの建造物が立ち並び「東洋のパリ」とかと呼ばれるようになります。ホーチミン市には、コロニアル建築で有名なノートル・ダム大聖堂、市民劇場、コンチネンタルホテル、マジスティックホテル等が、百数十年を経て現存しています。途上国であることは歪めないのですが、「東洋

のパリ」は常夏の国でありながら、洗練されたホテルやレストランがあって、人柄も含めて日本にひけをとらないくらいいいかした街なのです。ベトナムは、日本と同じように欧米の覇権争いに巻き込まれ、一度は1940年日本が解放、そして日本の敗戦でフランスの植民地支配が復活、続いて1954年には完全に独立を遂げたのもつかの間、再び1961年ベトナム戦争が始まる悲しい歴史でありながら、そこには敗戦時8万人いた日本兵のうち600人もの士官が残存支援していた歴史があり、是非はありますが影響は少なからず日本ゆかりの地なのであります。

皆さん、東洋のパリに魅力を感じたら、是非私にお声掛けください。以上会長代理報告といたします。ご清聴ありがとうございました。

## 会務報告

立崎 貴之 幹事

①帯広東RC、夜間移動例会開催のご案内

日時 10月24日(火)午後6時30分  
場所 幕別パークホテル悠湯館



②帯広西RC、夜間移動例会開催のご案内

日時 10月26日(木)午後6時30分  
場所 北の屋台

※集合は18:00～シャレードで受付をし、18:30より例会セレモニー開催後に北の屋台へ移動します。  
※当日は受付会場の混雑が予想されますので、時間に余裕をもってお集まりください。

③帯広南RC、10月30日(月)の例会は、休会と致します。

④帯広東RC、移動例会開催のご案内

日時 10月31日(火)午後0時  
場所 大樹町宇宙交流センター

⑤その他

本日、高松ロータリークラブ様より新年度の会報が届いております。回覧をいたしますのでご一読いただきますようよろしくお願いいたします。



Rotary



会長 天野 清一  
幹事 立崎 貴之

副会長 上野 裕司  
副会長 柳沢 一元

会場監督理事 伊藤 公康  
プログラム委員理事 近藤 真治

発行：広報委員会  
委員長 板倉 利幸 (副) 朴 昌人



例会日/木曜日 12時30分～13時30分 例会場/北海道ホテル 帯広市西7条南19丁目1 (TEL 21-0001)  
創立/1972年2月24日 事務局/帯広経済センタービル東館3階 TEL 25-7347 (直通) FAX 28-6033

## ニコニコ献金

山村 かおり 親睦活動委員

上野 裕司 副会長

会長代理挨拶させていただきます。

郷 誠一 社会奉仕委員長

本日担当例会です。よろしくお願  
いします。

茨木 雅敏 会員

先週の帯広西RCゴルフ同好会最終コンペにおい  
て、棚ぼたで、真ん中賞をいただきました。



岡田 英樹 会員

カワタマスターズ優勝しました。人生初のチャン  
ピオンベルトをお預かりします。

山村かおり 親睦活動委員

ニコニコ発表させていただきましたので、ニコニ  
コさせていただきます。

ニコニコ 献金	10月19日	13,000円
	累計	212,000円 (10月19日現在)

## ◇プログラム

郷 誠一 社会奉仕委員長

# 「ロケット教室の報告と使用済み切手の使い方」



今年度社会奉仕委員会の委員長を務  
めさせていただいております郷と申し  
ます。今日はロケット教室の報告と使  
用済み切手を今年度社会奉仕の方で集  
めようということで、こちらの説明を  
去年もやったようで、二重になるかと思いますがもう一度聞いていただければと思います。よろしくお願  
いします。

今年度、ロケット教室は地区の補助金事業として、7月10日に実施してまいりました。このロケット事業は50周年と更に昨年の財団の補助金事業として、もう過去に2回やっております。こちらの事業は小学校に植松勉さんをお招きして「思いは招くロケット教室」ということで実施してきました。今回が補助事業としては2回目になりますので、来年度で3回目となり、こちらで一応区切りの3年目っていうことになっております。こちらの事業はもう何回もやっているのご存知かとは思いますが、植松電気さんがやがてロケット教室を手掛けるまでになった実体験をもとに、夢を諦めなければ実現するのだ、というメッセージを講演とミニロケット製作を通じて子供たちに贈る取り組みをしております。今年開催した小学校が士幌小学校になります。過去2回は帯広市内で開催しておりましたので、管内にも目を向けて今回は帯広市内ではなく、他の所でもやりたいという私の意向もありまして、管内の小学校に目を向けてみました。士幌小学校は、私の会社で卒業アルバム等の仕事をさせていただいてるので、話を持っていきやすかったということで、恣意的な事情を加味して話しやすかったのでこちらの学校に選定させていただきました。学校との交渉は、去年の10月に学校の方に実施したいということでお話しさせていただいて、当時5年生の担任の先生は今年6年生の担任になりましたが、その先生に是非させていただきますということで資料を添えてお願いしました。お陰様で新年度にロケット教室の予定を組んでいただきまして、無事開催できる運びになりました。毎年10月ぐらいに予定をしてたんですが、どうしても年間スケジュールの関係で10月開催となると、発表会の総練習等色々事業が重なってございまして難しいということで、7月の夏休み前が一番余裕があるということで、今年度は7月に開催させていただきました。年度始まりが4月の小学校と7月のローターのスケジュールの調整で話がしづらくて、我々は7月スタートで、新年度がスタートしてすぐの事業になるものからできるのかと思いました。天

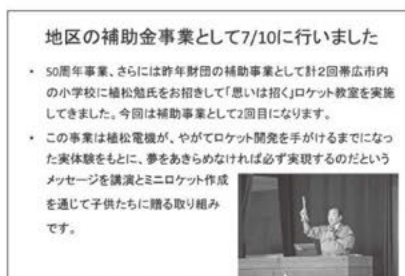
野会長も就任してすぐの最初の例会が終わって3日後ぐらいにこちらに来て挨拶していただくような形になってしまったので、非常にバタバタさせてしまったという思いはあります。実際に参加した生徒の人数ですが、5年生と6年生を対象にしました。6年生が40人しかおりませんでしたので、ちょっと少ないかなと思ひまして、一応80人ぐらいまでなら予算的に可能ということで、今回は5、6年生を対象に開催させていただきました。

当クラブから当日は、天野会長、立崎幹事、上野副会長、柳沢副会長、飯田会長エレクト、私、石原副委員長と江口会員と広報委員会の朴さんも来ていただいて記録を残していただきました。また報道関係にも声をかけまして、十勝毎日新聞社と北海道新聞社にお声掛けして取材していただきました。当日のタイムスケジュールは、3分ぐらい会長にお話ししてもらいまして、9時半から1時間ぐらい植松さんに講話していただいて、10分ぐらい休憩して、ロケットも1時間ぐらいで作成して、その後グランドに行って打ち上げをして、みんなで最後は集合写真を撮って終了という感じになります。当日はとても暑い日で、確か30度ぐらいになってたと思うのですが、士幌小学校は帯広市内の小学校と違って、全クラスの教室にエアコンが付いていて、教室での授業はとても快適なのですが、体育館で実施したものですから、体育館に冷房設備がありません。構造上換気も非常に悪くすごく暑中でさせていただいて熱中症の心配を先生方がかなりしておりました。そんな中でも倒れるようなこともなく、子供たちも集中力を切らすようなこともなく、無事に実施できました。その時の様子をまとめた動画がありますので、見ていただきながら説明させていただきます。体育館が非常に暑くて大変だったのですが、いつも通り植松さんに講演をしていただきました。最初子供たちも何の話をするのかあまりちゃんと説明を聞いていなかった様子で、「何を話しているんだろうこのおじさんは…」という顔で見えていたのですが、さすがは植松さん、話も慣れていると思うのですが、話していくうちにどんどん子供たちが植松さんの話に入り込み集中しているという感じに変わってきました、すごくいい目をしてたなという印象があります。コロナが5類にはなったとは言っても、学校はまだ結構マスクをしてる方が多かったと思います。休憩中にある女の子が、普段は引っ込み思案で全然一人でお話とか質問しに行くような子じゃないらしいのですが、何か心に相通じるものを感じた

のか、自ら質問しに行き先生もびっくりしておりました。さすが子供だけあって1人が質問に行くと、取り囲んでワイワイと色々な話や質問をしておりました。実際にロケットの作成に入っていくのですが、ロケットの作り方の説明は一切していません。キットの中に入っている説明書を読んで、みんなと相談しながら作ってくださいとしか言いません。子供たちにも解りやすく書いてあるのですが、解らないことはお友達に聞きながら、あちらこちらに立って歩きながら、他の子を手伝ったり、解らないことを聞きながら協力してやっておりました。また校長先生も「俺も自分で作ってみたい」ということで作っていただいて、子供たちと一緒に作っておりました。解らないと言いつつも、子供たち同士で相談しながら仲良くやっておりました。いつも会っている子たちで、普段はふざけることが多い子も、今日ばかりは結構集中して楽しんでたという感じがしました。ロケットが出来上がった自分たちで好きなデザインをサインペンでペイントします。その後は実際に外に出て飛ばします。発射台にセットして2人ずつ組になって5年生と6年生で4人ずつ飛ばして、自分の飛ばしたロケットを自分で回収しに行くという流れになっています。発射時の音も結構大きな音がします。シューッという音で結構びっくりするお子さんもいました。自分のロケットが飛んでいくのをニコニコしながら見上げて楽しんでおりました。みんな必ずロケットが飛んでいくと上を向いて、当クラブのメンバーもみんな上向いて見守っています。子供たちはみんな素直に自分が飛ばしたロケットをいち早く回収に行きます。学年違いの子供たち

が、プールの帰りにたまたまロケットを飛ばしているところに出くわして、「すごいすごい、いいいいいな」と歓声を上げているシーンがありました。校長先生のロケットも飛ばしたので、その後走って回収に行っておりました。このロケット自体を飛ばす火薬もAmazonで買えるらしくて、自分たちでそれに変えて発射装置だけあれば何度でも飛ばせるそうです。最後は植松さんからまとめの話を聞いて、最後はみんなで集合写真を撮って終了となりました。何せ暑かったので、子供たちが倒れないかと思って心配しておりましたが、そんな心配はよそに子供たちはみんな元気で笑顔いっぱいでした。当日取材していただいた十勝毎日新聞社と北海道新聞社には記事をしっかりと載せていただきました。

今回の事業で、実際にかかった費用はモデルロケットキットというのが、小学生以下一人分が3,300円です。この他に交通費が55,000円かかっておりますので、今回全体にかかった費用が30万円弱ですが、これ以外に講演料とか講師料とかは発生していないので、かける人数分プラス交通費と宿泊費しかかかっておりません。実際には30万円ぐらいかかっているのですが、地区の補助金を使って実施しましたので、クラブからの手出しは実質12万円ぐらいという計算になります。これぐらいの経費でこの事業が出来るのであれば、子供たちが夢をつなぐという大きな目的を考えると、とても有意義なお金の使い方、大変満足のいくものだったと個人的な感想を思っております。以上がロケット教室の報告になります。

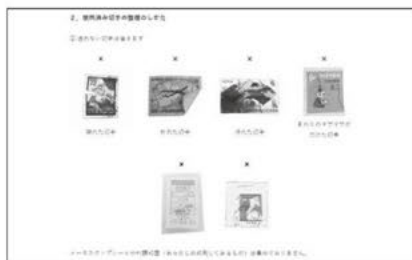


続きまして使用済み切手の収集になりますが、使用済み切手を集めてどうなるのか、これが何故お金になるのかということが私もわかっておりませんでした。どうしてお金になるのか、使い道はどうかということが非常に疑問になって、今回自分で調べてみました。調べてみると色々な団体が古切手の受付をしていることが分かりました。今回調べた団体が、JOCSという日本キリスト教海外医療協力会というところがありまして、こちらの中を見ると去年の10月ぐらいまで一度止めていたみたいですが、また再開していますと書いてありました。これを見て分かったのですが、5,000枚の使用済み切手を換金すると1,800円ぐらいになるそうです。1,800円あればタンザニアの看護学生一人の1年分の教科書

代になります。12,000枚でインドネシアの助産師学校の1ヶ月分の授業になるそうです。2,000枚でウガンダの助産師学校の半年分の授業料になるそうです。これがどうしてお金につながるのかが分からなかったのですが、ここの団体に送ると1箱で7.5kgとなっておりまして、1箱いくらかでコレクターさんに売るそうです。売るとそれが現金になるという仕組みです。どんな切手が入っているか分からない物をよく買うなど、自分は切手にあまり興味がないのでそう思いますが、中にはデザイン的にすごく貴重なものがあったり、色々なデザインを楽しんでいる方がいらっしゃるそうで、そういう物を買っていただけるといことです。現金化されるとお金が変わりますので、ワーカーさんの派遣ですとか奨

学금事業ですとか共同プロジェクトとかというものに使用されていくようです。使用済み切手の寄付の仕方ですが、切り方がありまして、あまり小さく切ってもダメみたいなので、1cmぐらい耳を残して切って、それを集めるという形になります。わざわざ剥がさなくてもいいそうです。剥がして破れてしまったら収集の対象にならないので剥がさなくていいそうです。切手を何枚も貼っているものに関しては、全体に1cmずつ残してそのまま袋に入れてくださいということです。使用できないものは、破れてしまったものとか、折れてしまっているもの、汚れてしまっているもの、一部周りのギザギザのところは切れてしまったとか、ハサミで切る時に切手を切っ

まったというのはダメみたいです。メールスタンプシールとか、ハガキに直接印刷されている切手は使えないそうです。集めた切手は数える必要はありません。ホチキスでまとめて止めたりゴムで止めたりせずにそのまま袋に入れてくださいということです。日本のものと外国のものは分ける必要があるみたいです。当クラブでも集めたいと思っているのですが、今は電子メールでのやり取りが主流なので、なかなか切手も集まらないとは思いますが、できましたらまとめて送らせていただきたいと思います。例会時に会場に5月頃まで毎週収集ボックスを設置しますので、そちらに持って来て入れていただくと嬉しいです。ご協力をよろしくお願いいたします。



次に、先日帯広市から当クラブに交通安全の啓発運動に参加してくださいということで、10月の4日に参加してまいりました。様々な団体に声がかかっていて一斉にやりました。時間帯は4つに分かれて、帯広市役所の前と警察署の前で啓発運動をしました。当クラブからは5名で参加しました。柳沢副会長、佐々木和彦委員、江口会員、石原副委員長と私で啓

発活動をしてきました。20分ぐらいの旗振りでした。旗を渡されて、歩道から車道に旗を出さないでくださいといった事前に注意を受け、協力させていただきました。市役所の駐車場の方でも2列になってさせていただきました。交通安全に対する啓発と同時に親睦を深める有意義な時間を共有させていただきました。

参加者 柳沢副会長・佐々木和彦委員・江口会員  
石原副委員長・郷誠一 5名



ここからは時間が少々余りましたので、私が所属するロータリーのバイクの集まりが去る9月30日と10月1日に例会をしたので、その時の様子をご報告します。まずはばんえい競馬場で競馬を楽しみました。2500地区と2510地区の方と帯広からも20名ぐらいのメンバーが参加しておりました。実際に馬券を買って勝った方もおられました。松田パストも参加しておりました。松田パストは結構なお年齢になりますが、BMWのGS1200という大きいバイクに頑張って乗られています。十勝川温泉の道の駅からナイタイ高原まで38台でツーリングしました。休憩しながらバイクの話

をしたり、色々な話をして、ナイタイテラスと書いてあるアーチのところで集合写真を撮りました。それから音更の道の駅「なつぞらのふる里」までみんなでツーリングしてきました。すごく楽しく走って、もちろん安全運転で交流を深めてまいりました。最後はまたみんなで集合写真を撮って「お疲れ様」と声をかけあって、その後解散という内容の例会でした。

以上になりますが、本年度もまだ自分の担当する事業がありますので、ご協力をよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。

